

優秀賞

だいじょうぶ？ 朝日小学校 関 晴斗

「大丈夫？」

あの日僕にかけられた一言は今でも心に残っています。その日はいつもと同じ帰り道で僕は少し急いで家に帰ろうとしていました。そのため、自転車のペダルをいつもより強くこいでいました。道を進んでいるとき、段差に気づくのがおくれでしまい止まろうとしましたが間に合わず、そのまま乗り上げてしまいました。そのしゅん間バランスをくずし、僕は地面にたおれてしまいました。ひざをすりむき手のひらにも強い痛みが走りました。突然の出来事に頭が真っ白になり、痛みでしばらく動くことができませんでした。周りには知ってる人はおらず不安な気もちがどんどん大きくなっていきました。そのとき「大丈夫ですか？」というやさしい声が聞こえました。顔を上げると見知らぬ人が心配そうに立っていました。その人はすぐそばに来て、僕のけがの様子を見ながら、

「痛いよね、ゆっくりでいいから立てるかな。」

と声をかけて、やさしく手を差し伸べてくれました。僕はその手につかまり少しずつ力を入れて立ち上がることができました。その人は倒れていた自転車も起こしてくれて、

「無理しないで気をつけて帰ってね。」

と言ってくれました。ずっと不安だった気持ちが、「大丈夫」の一言でふっと軽くなりました。

三週間後、習い事に新しく入ってきた子がいました。不安そうにしているその子を見て僕は自転車で倒れてしまった時の事を思い出しました。自分が不安だったとき助けてもらったように自分も不安な人を「だいじょうぶ」で支えられる人になりたいと思いました。その日コーチに紹介されて、体育館に入ってきたその子はどこか落ち着かない様子で周りをきょろきょろと見ていました。知らない場所、知らない人達の中にいる不安は、きっととても大きいものだと思います。僕は少し迷いました。声をかけたい気持ちはあるのに、話しかける勇気が出なかったからです。でも、あの日の事が頭に浮かびました。たおれて動けなかった僕にためらわずに声をかけてくれたあの人の姿です。僕はゆっくりその子に近づき、

「だいじょうぶ？」

と声をかけました。するとその子は、少しおどろいたような顔をしましたが、すぐにほっとしたように小さくうなずきました。

「きんちょうしてて、声がかけづらくて。」

と小さな声で話してくれました。

「僕も最初はすごくきんちょうしたよ。でもすぐになれるよ。」

と伝え、自分の経験を少し話しました。それから僕はその子といっしょに練習したり、コーチの話をいっしょに聞いたり、分からないところがあれば教えてあげたりしました。最初は暗かったその子の表情も、少しずつやわらいでいき、帰るところには笑顔を見せてくれるようになりました。

「さっきは声をかけてくれてありがとう。」

と言われた時胸のおくが温かくなるのを感じました。あの日見知らぬ人にかけてもらった「だいじょうぶ？」という言葉が今度は自分の口からだれかに向けられ、その人の不安を少しでも軽くできたのだと思うと、とてもうれしかったです。僕は改めて気づきました。たった一言でも人を助ける力がある。そし

て、そのやさしさはだれでももつことができ、また次の人へとつないでいけるものなのだと思います。

これから先、まただれかが困っていたり、不安そうにしていたりする場面に出会うかもしれません。その時僕は迷わずに、「だいじょうぶ？」と声をかけたいと思います。その一言があの日のように、だれかの心を少しでも軽くすると思っているからです。一人一人が困っている人を見かけた時に、「だいじょうぶ？」の一言を言えれば、社会をもっと明るくすることができると思います。